

平成30年度 自己評価書

甲府市立北新小学校

校長 大村 一也	記述者 教頭 齊藤 宗市
----------	--------------

本年度の学校教育目標

- すすんで学習する子ども
- 健康づくりをする子ども
- 思いやる心をもつ子ども
- 根気よくはたらく子ども

～北新小の子は～

あいさつをします。 友だちと仲よくします。 がんばりがまんをします。
自分のおもいを自分のことばで伝えます。 よく学びよく遊びよく働きます。

学校経営の重点

- 1 全教職員の協働と共創の中で自らの研鑽を積むとともに教育の日常性を重視し、児童理解に努め、児童・職員一人一人が生き生きと輝く学校・学年・学級づくりに努める。
- 2 行事や活動を通して楽しい学校・特色ある学校をめざすとともに、心豊かでたくましい子どもの育成に努める。
- 3 自ら学ぶ意欲や態度を育てる。
- 4 健康安全指導の充実と運動能力・体力の向上を図り、自他の生命を尊重する子どもの育成に努める。
- 5 学校と家庭・地域との相互の連携を深め、地域に根ざした開かれた学校づくりに努める。

1 全体に関わって

28項目中、総合評価が90ポイント以上が22項目、89～80ポイントが3項目、79～70ポイントが3項目、70ポイント未満が0項目となっており、全体的には肯定的な評価結果と言える。しかし、80ポイント未満の項目については本校の課題と捉え、具体的な改善策を考え、共通理解を図りながら取り組んでいきたい。
また、意見や自由記述で出された課題等についても全職員で検討を行い、改善に向けた取組を行っていく。

2 各項目ごとの評価	
I 教育課程・学習指導	状況（評価項目数：5）
	<p>① 総合評価では、全項目が90ポイント以上である。</p> <p>②-1 「全体について」の意見等・自由記述欄 検討点として、教職員の負担軽減についてが、肯定的な意見としては、全職員が協力的で、学校教育活動全体が有意義なものであったことが挙げられた。</p> <p>②-2 「花づくり活動について」の意見等・自由記述欄 検討点としては、教職員の負担軽減・児童への取り組みの浸透などが、肯定的な意見としては、伝統があり、代表的かつ全校体制の取り組みであることが挙げられた。</p> <p>②-3 「吹奏楽活動について」 検討点としては、担当教師以下職員の負担軽減、児童への指導体制、土曜練習などが、肯定的な意見としては、特色ある活動であり、児童の自主的な活動として根づいてることなどが挙げられた。</p>
	改善策など
	<p>② 「花づくり」は、今年度から活動の縮小体制を図り、来年度は種から育てることを止め、苗から育てていく方針である。これにより、かなりの負担軽減が予想される。また、職員間で、花づくり本来の目的を再確認し、教育課程の中で活動を再構築していく必要がある。「音楽吹奏楽活動」も、今年度から活動の縮小体制を図り、教職員の負担を軽減できるよう取り組んできているので、さらなる負担軽減に向け、発表の場の精選を図っていく。また、小さな出来事でも見逃さない異年齢集団の中での生徒指導体制の徹底を図っていく。</p>

II 特別支援教育	
状況（評価項目数：1）	
<p>① 総合評価では、97ポイントである。</p> <p>② 4段階評価では、「C」評価がある。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点としては、「こだま1」「こだま2」「こだま3」の名称変更が、肯定的な意見としては、職員の協力体制、コーディネーターの活躍による成果が挙げられた。</p>	
改善策など	
<p>特別支援コーディネーターのリードの下、情報の共有など、特別支援学級への支援も組織的に行え、また個別のニーズに応じた支援も充実させることができた。 名称については、在籍する児童の保護者の意見も尊重しながら、検討課題とする。</p>	

III 生徒指導	
状況（評価項目数：5）	
<p>① 総合評価では、4項目が90ポイント以上、1項目が83ポイントである。</p> <p>② 4段階評価では、1項目に「C」評価がある。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点は、特になく、肯定的な意見としては、生指主任のリードの下、毎月の情報交換と職員の協力体制がしっかりできたことが挙げられた。</p>	
改善策など	
<p>本年度もスクールカウンセラーが配置され、また、コーディネーターの細やかな差配で「困り感」を抱える児童や保護者へ教育相談支援を充実して行うことができた。 これまで同様、児童の話をよく聴いたり、声かけをしたりし、一人一人の児童の様子を的確に把握し、家庭とも連携を図り、的確な対応をしていく。また、未然防止と早期発見のため、生徒指導主任を中心として、情報交換を密に行い、全職員で組織的に対応していく。 家庭・地域・関係機関との連携を深めるため、「報・連・相」を確実に実施し、各職・各分掌がそれぞれの立場で対応しながら、相互に連携を図る。</p>	

	状況（評価項目数：3）
IV 保健管理	<p>① 総合評価では、全項目が90ポイント以上である。</p> <p>② 4段階評価では、1項目に「C」評価がある。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点として、職員が手薄な時の防犯防災体制、防災用具の整備が挙げられ、肯定的な意見としては、朝食指導での成果が挙げられた。</p>
	改善策など
安全管理	<p>本年度は、地震による外壁の倒壊や小学生の誘拐殺人事件の発生、周辺地域での不審者情報が多く寄せられるなど、防犯防災体制の徹底が求められた。防犯訓練は実施しない計画であったが、警察より要望があり、児童への講話という形式で実施した。今後は、隔年ではなく、毎年実施の方向で検討していく。</p> <p>防災計画を見直し、管理職不在時や職員体制が手薄な時の対応を含めて、実効性のあるものにしていく。</p>

	状況（評価項目数：4）
V 運営組織	<p>① 総合評価では、全項目が90ポイント以上である。</p> <p>② 4段階評価では、1項目に「C」評価がある。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点としては、時間内での会議の終了、さらなる北新モデルでの授業改善が挙げられた。肯定的な意見としては、教職員の協働の成果が挙げられた。</p>
	改善策など
研修	<p>少人数の職員で多くの分掌を受け持っているため、経営重点達成を目指しつつも、効率よく且つ十分機能するように改善を図る。具体的な例としては、生徒指導と特別支援で重複するケースの場合は時間的な効率にも配慮する。また、分掌を細分化しすぎているかを検討し、次年度に向けて統合も視野に検討する。</p>

	状況（評価項目数：3）
VI 教育目標・学校評価・地域連携	<p>① 総合評価では、全項目が90ポイント以上である。</p> <p>② 4段階評価では、1項目に「C」評価がある。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点としては、特になく、肯定的な意見としては、新たなボランティアの拡張が挙げられた。</p>
	改善策など
	<p>本年度、PTAや地域団体への参加体制については、管理職で対応してきたので、今後もその方向で進めていく。</p> <p>今後も、学校評価をもとにPDCAマネジメントサイクルに基づいた改善が行うことや、地域とともにある学校・地域に開かれた学校として積極的に情報を公開することを進めていく。</p>

	状況（評価項目数：2）
VII 教育環境整備	<p>① 総合評価では、全項目が95ポイント以上である。</p> <p>② 4段階評価では、「C」「D」評価はない。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点として、教材備品の老朽化に伴う入れ替え、教材のデータベース化が挙げられた。</p>
	改善策など
	<p>今後も、安全点検を着実にを行うことや、教材等の適切な整備を進めていく。</p>

不易の部分を大事にすることは、心身共に強い子を育てることになり、それが生きる力になる。
 「北新小の子は」は不易の部分の習慣化をめざし、平成22年度より設定した項目である。
 よって、前掲の評価項目が適時改訂したのに対し、以下は行っていない。

北 新 小 の 子 は	状況（評価項目数：5）
	どの項目も児童の健全な成長の根源となる大切な項目であり、例年、職員の評価も厳しめに行われている傾向がある。本年度は、5項目中80ポイント台の総合評価が2項目、70ポイント台の総合評価が3項目となっている。 一方、前年比で見ると、5項目中3項目の総合評価ポイントが改善している。
	改善策など
	<p>「あいさつをします」 昨年度より、総合評価としては、わずかに低下した。 児童会本部の工夫した取組（あいさつ運動やあくしゅキャンペーン）と教師の共通認識による指導により、朝、児童玄関前や登校して教室に行く前に職員室にあいさつに来る児童は多く、気持ち良い朝を迎えることができているが、朝以外のあいさつが今一步である。今後とも指導や取組を推進し、通学路でも大きな声であいさつできること、あいさつをする子・しない子の二極化を解消することを目指していくことが求められる。また、日常生活の中であいさつをするという習慣が定着していないと思われることから、学校だけではなく、家庭や地域と連携した取組をさらに進めていくことも大切である。</p> <p>「友だちと仲よくします」 昨年度と同等の総合評価である。 たてわり活動や吹奏楽活動の充実によって、高学年が低学年の面倒をよく見るなど、学年を超えた繋がりが定着してきている。今後も、継続して取り組みたい。課題として、一部の自己中心的児童の言動の継続的な指導が挙げられており、全職員の同一歩調での指導を徹底していきたい。</p> <p>「がんばりがまんをします」 昨年度より、総合評価としては、改善が見られる。 集団で生活する中では、自分の思いどおりにならなかったり、いやでもやらなければならないか、なかつたりする場面はよくあることである。そのような時に、「なぜそれがいけないのか」「どうしてこれをしなければならないのか」を理解させた上で、できたときにしっかり褒めてあげることが自己肯定感、自己有用感、成功体験をもたせることにつながる。一つ一つの経験の積み重ねが大切なので、根気よく継続して「がんばりがまん」で指導していく必要がある。</p> <p>「自分のおもいを自分のことばでつたえます」 昨年度より、総合評価としては、改善が見られる。 新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」の実現ため、対話的な学習や言語活動を積極的に展開し、ことばで伝える力の伸長を今後とも目指していきたい。 日常の生活の中では、「うまく伝えられない」「伝え方がよくない」等でトラブルになることがあり、これが「友だちと仲よくします」という面でのトラブルの原因になっていることが多い。言葉で伝えることができず、手を出してしまったり、まちがえた行動をとってしまったことも見受けられる。否定的な言葉ではなく、お互いが前向きになれる言葉で伝えることを機会と捉えて指導をし、道徳の時間や学級指導、集団活動などを通して、相手を思いやる心や、適切なコミュニケーションのとり方について指導していく。 職員室への入り方など、日常の中での「話し方」の指導も継続して行っていく。</p> <p>「よく学びよく遊びよく働きます」 昨年度より、総合評価としては、改善が見られる。 児童会の取組（自問清掃）や生徒指導の成果もあり、一生懸命清掃活動に無言で集中している児童が増え、働く姿勢の向上が見られた。今後も、自問清掃で取り組む姿勢を目指し、働くことへの意欲の向上を図る指導・支援を行っていききたい。 家庭との学習面のさらなる連携、異学年や教師との遊びや活動の充実を通し、何事にもやりがいや目標をもって取り組む児童の育成を図っていききたい。</p>